

合い言葉は「出会い」と「挑戦」。 多彩な生き方を高校生に伝える情報誌を発行。

若者それぞれの職業観を育てるために、現在、小・中・高校に「キャリア教育」が導入されている。愛知県のNPO法人 アスクネットはこれまで「キャリア教育」のコーディネーターとして活動している。その効果をさらに広げるため、県内の高校生向けに情報誌を発行している。

オトナと生徒を結ぶ

「キャリア教育」コーディネーターとして活躍。

NPO法人 アスクネットの活動はさまざまだが、根底にあるのは「キャリア教育」のサポートであり、経済産業省や文部科学省なども推進している。近年、若者の早期離職が問題となり、またフリーターやニートという言葉をよく耳にするようになった。これには就職する前段階において若者が自分の能力や適性、また将来への目標を見失っていることが大きく影響していると考えられている。これに対応し早い段階からキャリア(経験)を積み重ね、勤労観、職業観を育み、自発的に職業を選択し就労する能力を修得させることを目的としているのが「キャリア教育」だ。例えば、地域の企業から講師を招いて小・中・高校に派遣して授業を行う、逆に児童・生徒が

企業に出向いて実際の業務を体験するなどである。

学校外に広くネットワークを持つアスクネットのようなコーディネーターを活用することで、学校に大きな負担感を与えることなく、効果的なキャリア教育を進められる。現在、アスクネットは愛知県の委託を受けて、数々の実績をあげている。

同法人代表理事の白上昌子さんは「活動を通じて、子どもたちだけではなく先生方や保護者の皆さんもいろいろな悩みを抱えているのを感じます。人間は多様ですから、同じ知識を単に詰め込もうとしてもうまくいきません。キャリア教育は人生にはいろいろな価値観や選択肢があることを教えてくれますから、子どもたちが自発的に自分の道を見つけるためには有力な手段だと思っています」と語る。

より多くの子どもたちに多彩な生き方を伝えたいと2003年、アスクネットはキャリア教育を目的とした高校生向けの情報誌「Schan(エスチャン)」を発行した。

合い言葉は「出会い」と「挑戦」。もっと多様な視点で仕事や生活を見つめ、自分の人生に挑戦しようというものだ。

発刊当初は進学や就職情報誌と間違えられるという



「Schan」2009夏号と秋号。2009年度は年2回発行し愛知県内の私立・公立校を中心に無料配布された



秋号の中面 高校生たちの生活のさまざまなシーンをテーマに構成

こともあったが、アスクネットの活動が知れ渡るにつれて、配布する学校も増えていった。現在の発行部数は約5万部。愛知県内の私立高校44校・公立高校151校に配布し、中には全生徒に配布する学校もある。

携帯サイトを作り高校生の参加を促進。

「Schan(エスチャン)」はそれ自体が多彩なおトナとの出会いの場となっており、高校生が編集に参加する。最初の特集は高校生が大人達に質問する「今号の大人代表」。タレントの中川翔子さんや、映画監督の大林宣彦さんなどの著名人もいれば、玩具メーカーの社員が登場して、自分の仕事の楽しさや苦勞とともに、高校時代にどんなことを考えて今の仕事に就いたかなどを答える。時には取材をする高校生と同じスタンスで考え、また時には人生の先輩としてアドバイスとエールを送っているのが印象的だ。このほか、モバイル関連企業の社員と生徒や保護者が携帯電話やインターネットの使い方について語る座談会や、大学の誌上オープンキャンパスのようなページがあるなど、進路だけではなく、高校生たちの生活のさまざまなシーンがテーマになっている。読者参加型の情報誌なので、口コミで広がるのも早かった。情報誌に掲載した人を講師として招きたいという学校も増えてきた。

ただし、アスクネットの運営には非常に厳しい現状にある。

「読者が明確でメディアとしての魅力はあると思います。ただ高校で配布する以上、無原則に広告は掲載できません。そこにこの不況が輪をかけて、協賛広告が激減しましたので一時は廃刊も考えました。でも高校生から期待されている情報誌ですから、なんとか続けたかったのです」と白上さん。

その思いは通じて、愛知県遊協とAJOSCの共同助成を受けることになった。2009年度は発行を2回に減らしたが、その一方で高校生の実状に合わせた参加促進を目指し、携帯電話サイトを作って案内することにした。高校生からは「いろいろな仕事のおもしろさがわかった」「将来の希望が明確ではないのは自分だけではないと

担当者より



地元の県遊協さんの助成を受けたことがあり難いと思います

NPO法人 アスクネット
代表理事
白上昌子さん

地域の子どもたちを企業も含め、みんなで育ててということが私たちの基本的な発想です。ですから今回愛知県遊協の助成を受けたこと自体が、経済的な意味合い以上の意義を持っていたと思います。また県遊協がさまざまな社会貢献活動をされていることをこの機会に知りました。協力しあえる点が多いと思いますのでこれからもよろしくお願いします。

知って安心した」「近くの企業に興味が出てきた」というような声も寄せられている。

アスクネットがめざす最終形は、子どもたちや学校と市民が結びつき、地域社会を彩っていくというものだ。「Schan(エスチャン)」の読者や学校、そして企業の反応を見ていると、決して夢ではないと思えてくる。



エスチャンのHPからQRコードで簡単に携帯電話サイト会員(エスチャンクラブ)に登録できる

愛知県遊技業協同組合から

アスクネットさんの取り組みは若者の健全育成と地域の活性化の双方を兼ね備えておりますので共同助成させていただきました。地域が子どもを育てる社会を醸成することを私たちも夢見ております。